

星屑

VOL. 250
January '96



Hoshikuzu
No. 100



12 新発見発見



Nishikawa
Takumizawa
Tango
Comet (1987C)



星屑250号記念表紙
いろいろな出来事を伝えた星屑
貴方はいくつ判ります？

熊本県民天文台

新年を迎えるにあたって

大きな変化が続く時代を楽しもう！ 台長： 艶島 敬昭

1995年は、大きな変化を県民天文台にもたらしながら、駆け足で過ぎて行きました。1996年へと続くこの大きな変化の波を、私の体験した出来事を中心に振り返って見ました。

2月、筑波でのGSW連絡会議

測地衛星「あじさい」観測についての会議の後、シューメーカー夫妻の講演会へ。メタンバンドで県民天文台で撮った木星上のキノコ雲のプリントにサインしていただいた。s1-9の衝突は、しばらくの間たくさん話題を提供するだろう。

3月、彗星会議（熊本）の大成功。

阪神大震災で、阪神地区からの参加が出来ない中では有ったが、大勢の参加を得て大いに盛り上がりました。

同時に、インターネットの重要性を強く認識させられました。

インターネット

熊本には、商用プロバイダー（接続業者）がなく、困っていると、九大の山岡さんからアドバイスが有りました。

すぐに、熊大・電応研・工業技術センターへ協力を要請。公共性が高いこと、発信する情報を持っていること、などが評価されたせいか、ホームページを開設できることになりました。

大急ぎで制作し、4月中に開設。総会に間に合わせる事が出来ました。

記念すべき第1号のレスポンス・メールはフランスからだったのでびっくり！世界と繋がってしまったことを実感しました。

その後、火星食の動画を載せたり、小林副台長の彗星観測画像を載せたりしながら、発展を続けています。

レスポンスも、アメリカやカナダにまで広がり、国内でも熊大卒業メンバーからのものを含め、各地より寄せられています。

また、11月29日発売の「インターネットマガジン」では、宇宙特集として付録のCD-ROMに天文台のホームページが収録されました。まだ店頭にたくさんあるはずですので、ぜひ購入して、確かめて下さい。実際にインターネットに接続しなくても、Windowsの動くパソコンなら、ちゃんと見えると思います。

(Mac. も大丈夫)

5月、台長交代

前任の永井氏より引き継ぎました。

実働部隊が頑張るべき時期なのだと思います。ご支援をよろしく願います。

スター・フェスタを、今年はお休み

毎年先頭で頑張ってきましたが、今年には休養することに決めました。

8月、またも落雷被害

望遠鏡の駆動回路、エンコーダー、パソコンなどに被害、復旧作業に追われる。

9月、一般公開日を削減

運営委員の数が少なくなっており、また、望遠鏡の大型化で操作が難しくなったこともあって、これまでどおりの毎日運営が困難と判断。

12年間続いた「いつでも公開」を「金・土・日」だけの公開に9月から変更することを決定し、実行しました。

その代わりに、会員による観測の充実と、インターネットを使った情報発信、地元を中心に後継者育成に力を入れようと考え

えました。

自分たち自身が楽しくなければ、続けていけませんからね！

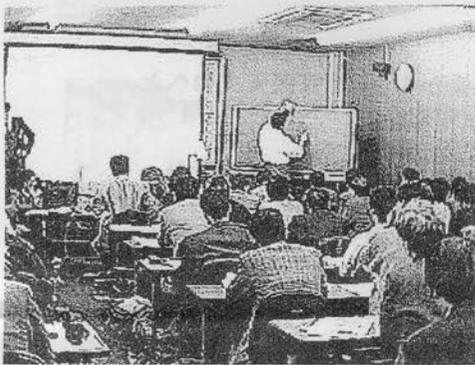
10月、日食と県民文化祭

10月にはアジアでの皆既日食。しかし、県民文化祭と日程が重なり、私は居残りです。「アンコールワットに行きたかったなあー」、ね、N君！

県民文化祭では、城南町やNTTの協力が得られ、写真パネルの制作、インターネットの実演・展示、2回の観望会など充実した内容でした。スペースシャトルやハッブル宇宙望遠鏡からの画像は、大人気でした。

もちろん、輪の消えかかった土星の方も、大変な人気でした。あと40数年しないと見られないかも知れないのですから。長崎から応援に駆けつけてくれた「トミタ」の皆さんありがとうございました。

11月、PAONET始まる

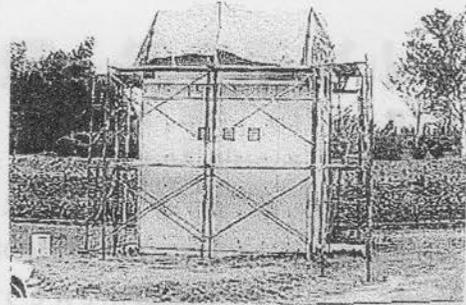


国立天文台を中心に、全国の公開天文台へ最新の観測画像を配信するネットワークが動き始めました。

ハッブルの画像もすぐにやってきます。もちろん、すばる望遠鏡からもやってくる予定です。

全国約50カ所が加入、科学館や学校でも熱心な所は参加しています。九州の公開天文台では、今のところ唯一の稼働サイトになっています。

12月、観測専用ドーム設置



夢にまで見た、本格的な観測用ドームがついに設置されました。

これは、N会員のお母さんが亡くなられ、その遺産の一部を寄付していただいたことを記念して設置されたものです。

直径2.8mのドームは、12月5日に据え付け工事が完了。今後、望遠鏡や付帯設備の設置・調整の後、冷却CCD専用の観測施設になる予定です。

いつもピントのあった状態でスタンバイ出来るので、観測能率が飛躍的に上がるものと期待しています。

次々と撮像される画像データの処理やインターネット・ホームページの制作、そして、その英語版の制作。外国からのメールへの返事等々、新しい仕事はすごい勢いで増えています。

しかも、それは雑誌やテレビで見たり聞いたりする「最新のこと」ではなく、私たち自身が時代の先端を切り開きつつあるのです。

ハレー彗星の頃(85~86年)言っていた、「どうせ遊ぶなら、波の最先端で」は、今でも私たちの合い言葉です。

大彗星現る

Hale-Bopp彗星は、これまでにない大彗星ではないかと言われています。

96年、太陽の向こう側から再び姿を現したとき、予定どおりの明るさなら、天文界はわき返るでしょう。

私たちも、県民天文台に若い「大彗星」が現れることを期待しつつ、大いに変化の波の先端でサーフィンしましょう。

新年のごあいさつ

名誉台長 宮本幸男

明けましておめでとうございます。

今年は「子(ね)」の年、ね・うし・とら・う……のネズミの年ですが十二支の始まりです。そのほか子午線の子は、「ね」の方角で北を示し、方位の始まりです。更に午前0時を表す子(ね)の刻は、一日の時の始まりでもあります。

以上の様に今年の新年は、方位や時刻の始まりからスタート、という意味で、心気一新、大いに「やる気」が出てきそうです。

県民天文台も台長さんが替わり、一般公開日等も変わり、活力に満ち溢れる年となることでしょう。アマチュアが自由に楽しめる天文台として、観測・研究と一般公開のバランスを旨くとして頂きたいと願っています。

ヘール・ボップ彗星も、今夏肉眼彗星にまで成長するようであれば、来春にはマイナス等級の巨大な彗星になり、ハレー彗星以上の天文ブームが巻き起こるかも知れません。そんな幸運に恵まれれば、会員の若返りも期待できるでしょう。新人教育では、県民天文台が一般からの浄財のご寄付によって創設されたことも、語り伝えて欲しいし、公私混同など無きよう、説明してあげて頂きたいと願っています。私は昨秋動脈の手術を受け、何とか快方に向かっていますので、再度の星空観望を楽しみにしている処です。では皆さんも大いに星をお楽しみ下さい。

《 祝“星屑”250号 》

永井 剛

昭和43年7月の発会から28年半、熊本天文研究会から 熊本県民天文台へと前進した、私たちの天文同好会の 機関誌は、誰が名付けたか その名は“星屑”。今回で250号を 数えることになりました。

ふり返ってみると、この間、時代の移り変わりと共に、“星屑”も随分変わってきました。編集担当者が次々と入れ変わり、印刷のしかたも進歩しました。

担当者は、古庄さんに始まって、100号特大号の小林寿郎さん、200号の楽しい企画をしてくれた高田さん、そして、最近では中島さん、国吉さん、中尾さん、その他 大勢の会員の方たちが、編集に当たってくれたし、イラストでは、立川さん、池永さんや西嶋さんが すばらしい腕を見せてくれました。

印刷の移り変わりも大変なものです。苦勞したガリ版ずりから、オフセット印刷、手書きからタイプ、そしてワープロと、見違えるほどになりました。好きでやっている人もいるでしょうが、時間のかかる仕事です。大変なご苦勞に みんなで感謝しなければと思います。

内容も色々ありました。天文雑誌に取り上げられたこともしばしばでした。思い出すのは 宮本さんの 望遠鏡に関する記事、小林さんの すい星のスケッチ、工藤さんや渡辺守さんの 天体写真など、楽しいものが数多くありました。

今後も よき人材が現れて、よりよい“星屑”が引き続き発行されることを期待しています。よい“星屑”には、多くの会員のみなさんの 協力が不可欠です。みんなて頑張りましょう。

念願のドーム完成！ やっと銀色に輝く観測所が！

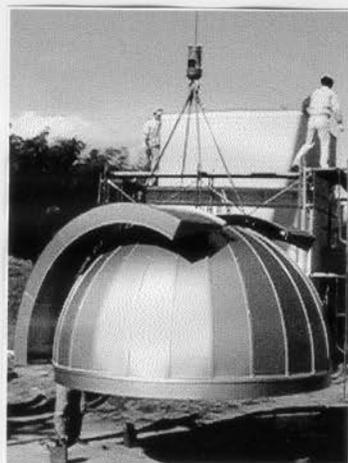
中島 尚

12月5日。ついにこの日、天文台にドーム付き観測所が完成した。クレーンでつり上げられたドームが、観測所の上へのせられた姿を見たときは、やはり感動しました。

さて、この観測所はそもそも観測専用のドームとして計画されたものです。私たちの天文台の性格上、41cmの主望遠鏡は一般公開中の10時までには、観測には使えないことが多いし、一般の人が多く出入りする関係上観測装置を取り付けたままにしておくことは難しいのです。特に、冷却CCDカメラを使用する場合に困りました。



そこで、観測専用の望遠鏡がほしいと思うようになったのであるが、最近みなさんの高齢化が進み、毎晩の夜風が身にしみるようになってきているようで、スライディンググループの評判は今一つでした。



なんとしても、ドームの観測所がほしい。こんな観測者の声に押し切られた形で、ドームを倉庫の上へのせることにしたのです。

こうやって始まったドーム建設計画ですが、なにせ予算が限られていることもあって、ドームの大きさは3m以下、観測所はなるべく安くということになりました。しかし、天文台本体とのバランスもありますから、程々のものという難しい要求となりました。そのため、業者との折衝一切は「折衝の魔術師」艶島台長に任せることになりました。

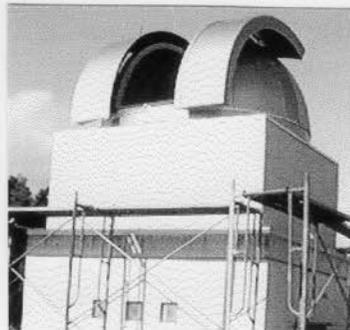
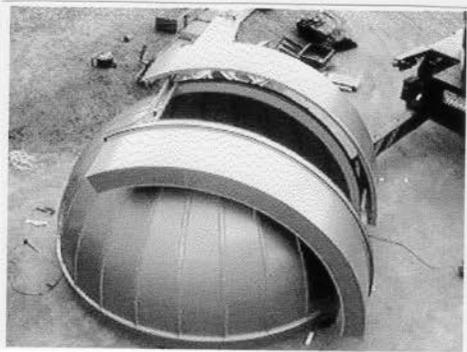
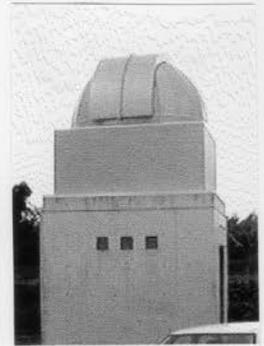


こうして艶島さんのねばり強い折衝のおかげで、なんとか予算内には納めることができそうな見通しになりました。しかし、そのために犠牲になったのが観測室の内装で、これは自分たちで時間をかけて行うことになっています。実際の工事は、11月28日（火）から始まりました。まず足場を組んで倉庫の屋上に観測室の骨組みの木組みを行いました。その工事は、なかなか丁寧で大きな材木を使い、しかも昔ながらのきちんとした組み方で頑丈に仕上げているのには感心しました。ドームのベースリングは思っていた以上に軽く、片手で持ち上げることができるほどでした。いくつか分割さ

れたこのリングを、観測室の上に取り付け、防水用の板金加工を施してあります。観測室の外壁は、外装板を使い天文台の屋根とうまくマッチするようになっていきます。

次第に観測室の形ができあがっていったのですが、大きな問題が持ち上がりました。それは、倉庫から観測室へ上る開口部の位置が当初の計画と違って、南側のほぼ中央部にあけられていたのです。それでも、また穴を開けるわけにもいかず、そのままいくことになりましたがどうも使い勝手が悪そうです。

見上げるちょっと
うれしい天文台....



やっと完成した
ドーム

こうして迎えたのが、12月5日（火）です。この日、日新ドームからトラックでドームが運ばれてきたのです。運ばれてきたドームはその場で組み立てられて、クレーンでつり上げられ観測室の上に載せられました。私が、1時半ぐらいに着いたときにはもうすでにドームの据え付けは終わり、足場がはずされているところでした。そこで、さっそく艶島さんとドームの中に入って使い方を教えてもらいましたが、結構観測室の中

も広くて、使いやすいそうでした。ドームの回転は思った以上に軽くよく考えられていることがわかりました。そうやってドームからでみると、ぽつぽつと雨が降り出していました。さっきまでの青空が嘘のような気がしました。

この観測所で実際に小林壽郎さんが観測を始めるまでには、まだ間がありますが、来年はヘール・ボップ彗星が明るくなるような年で、しっかり活躍することを期待してこの稿を終わりにします。

～'95年11月天文台運営日誌より～

・開台率: $8/12=66.7$ (%)

・来台者数: 66人(お客さん) + 26人(会員利用者) = 92人

日付	天気	来客数	運営	記事[会員利用者](日誌記入者)
4(土)	晴	16人	中島、松野 岩永、磯田	月、M57、土星、アンドロメダ(大星雲M31)、 γ (γ -And) ベガ、カペラ、すばる、アルデバラン、W-W、 $h-\chi$ 月がとっても明るかったので、よく見えなかった。 風邪で頭が痛い。(磯田)
5(日)	晴	8人	艶島、藪田	土星、M57、M31、 β -Cyg(アルビレオ)、月、すばる 子供がげんき。げんき。げんき。げんきすぎてうるさいなー と思った。[山口、藤林、河田、小野](藪田)
11(土)	晴	8人	中島、松野 岩永	土星、M57、M31、ww、月、アルビレオ [小林]、学生6人(松野)
12(日)	晴	2人	艶島、山口 甲斐、藪田	土星、 β -Cyg、 γ -And、M31、 $h-\chi$ 、すばる(双眼鏡) 龍ヶ岳の木戸さんよりTEL。M33(三角座の渦巻き銀河)が 肉視できたそうだ。うらやましい。[小林]、中島(藪田)
17(金)	快晴	5人	中尾、西嶋 山口、立川 小林	土星(seeingが悪く、既に輪が見えない。本当の消失は19日) アルビレオ、リゲル、ベテルギウス、M42、M31、M1 双眼鏡にてM45と天の川全景。 流れ星多数。でも、獅子群じゃない。(この日は、獅子座流星 群の極大日の前日) 宇土ボーイスカウトよりtel。明日、15人来台予定。 [藪田、岩永](西嶋)
18(土)	晴	8人	磯田、岩永 中島	土星、 $h-\chi$ 、すばる(双眼鏡)。流れ星多数有り。 seeing良好。(土星の)薄っぺらな輪が見える [小林]、藪田、山口、河田、後藤(藪田)
19(日)	晴の曇り	17人	松野、艶島 西嶋、藪田	土星(輪の消失。太陽が土星の輪を真横から照らす)、すばる 曇りの予報が出てたのに晴れた!!! (18時~22時) 運営中に天体写真を撮っている不遜な運営委員がいた。(藪田)
25(土)	曇の晴	2人	松野、岩永	土星、ダブルダブルスター、M31、アンドロメダ γ 、M42、 $h-\chi$ 、M36、M15、すばる。 [小林]、学生5人(岩永)

・運営以外の記事

日付	天気	利用者	記事(記入者)
3(金)	曇	小林、中尾	車が一台、19時前に来た。19時(一般公開開始時間)になってドアを 開けると、あわててバックして車止めに“ガッちゃん!”帰ってしまった。 一体何をしに来たのだろうか?? (小林) 望遠鏡修理(赤経)。屋根の開閉点検・調整。 ワイヤーを交換する必要あり。(中島)
4(土)	晴		望遠鏡再修理。回路はOKだが、ケースに入れると赤経増速ボタンが 効かなくなる。どこかリークしているらしい。(中島)
5(日)	晴	艶島、中島	(昼間)天文台の屋根を動かすケーブルの取り替え工事を実施 ついでに、芝刈も一部。(中島)
13(月)			Talk About

COMET PAGE

YOKKO NIJJE

晩秋も過ぎ、冬になると日暮れはどんどん早くなります。夕空の観測も 18時から 19時頃が好機で職場から直行の日々となります。天候が良ければ、そのまま朝まで観測・・・これじゃ体が持たないように思えますが、このように安定した天気は、冬の熊本には滅多にないので心配はいりません。今回は、そんな 11月末の夕空に光る彗星たちを紹介しましょう。

C/1995 01 (Hale-Bopp) は 9等級で楽とはいえませんが、薄明の中でまだまだ見えています。

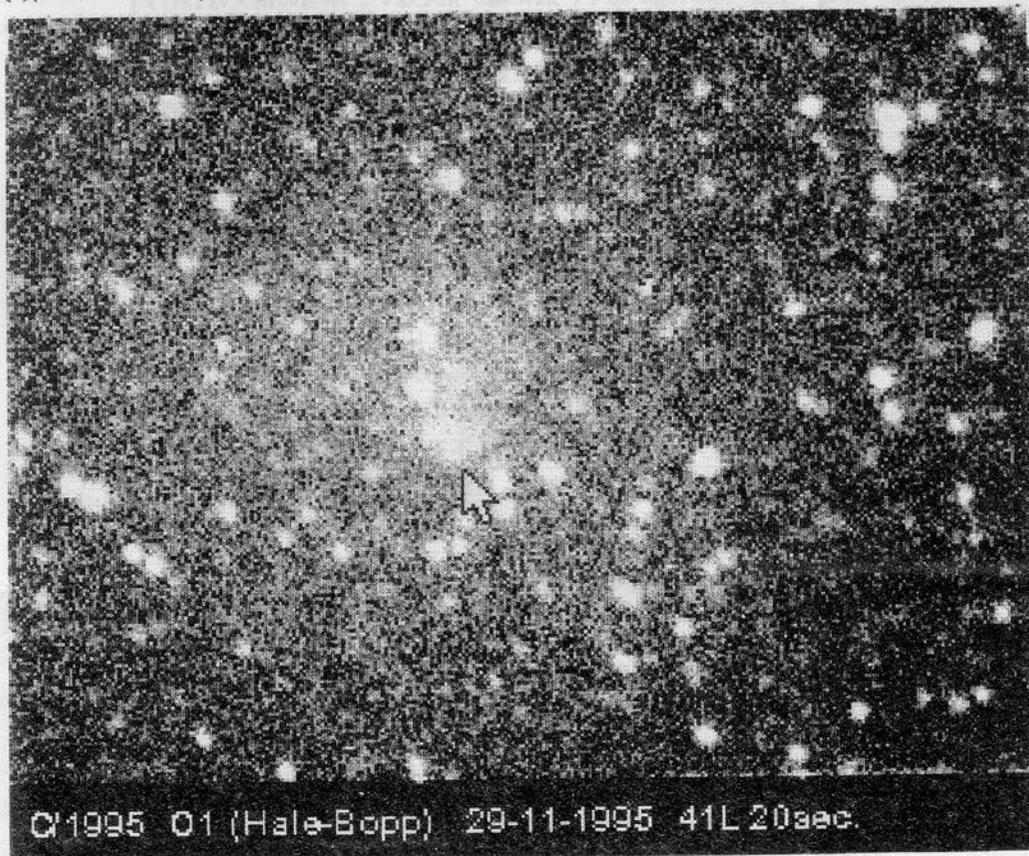
45P/Honda-Mrkos-Padjusakova は今回新規参入の彗星で、やっと写るようになりました。

73P/Schwassmann-Wachmann 3 は相変わらず元気です。

67P/Churyumov-Gerasimenko は早いもので、もう夕方に南中する位置になりました。

122P/de Vico は夕空で見やすくなりましたが、その活動は急激に衰え始めました。

ミ☆ ハールレーポップ彗星

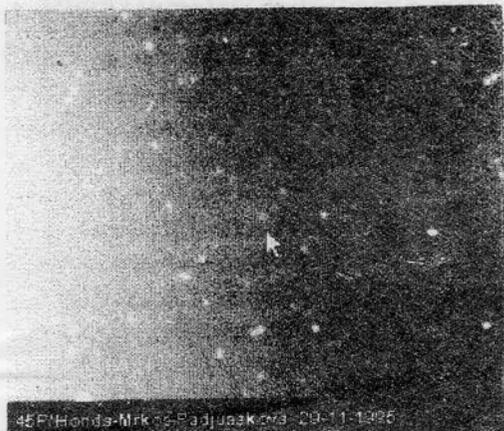


C/1995 01 (Hale-Bopp) 29-11-1995 41L 20sec.

20世紀最大との期待が高まるこの彗星は、その後順調といえる光度を保っています。この後しばらく太陽と合になって見にくい状態

になりますが、来年の 3月には明け方の空で見えるはずで、さて、どんな光度になっているか・・・再会が楽しみな星です。

ミ☆ 本田一ムルコスーパージュサコバ彗星



45P/Honda-Mrkka-Pajuaakova 29-11-1995

11月初旬からずっと写していましたが、銀河の中でもあって、はっきりした画像を複数得ることがなかなか出来ませんでした。ところが、写り始めるとあれよあれよと明るくなりました。上の写真は月が近くにあつて分かりにくいですが、もう北東に尾が発生しています。この星は来春地球に接近しますが、はたしてどんな姿を見せてくれるのでしょうか？

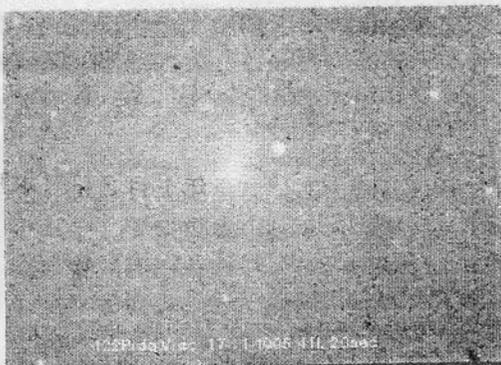
ミ☆ シュワスマン一ワハマン第3彗星



73P/Schwassmann-Wachmann 3 29-11-1995

さすがの大バーストも収まりつつあるようで、光度が下がってきました。でも、上図のように見事な姿を見せています。印刷では分かりにくいでしょうが、よく見るとアンチ・テイルもあるようです。月明の中でバックの明るさが東西で異なっていますが、銀塩写真ではとても写せないような中で、30秒でこれだけ写ってしまうのですから CCDは素晴らしい観測手段といえます。この星はこれから高度も上がってきて見やすくなりますので、今後も観測を続けたいものです。

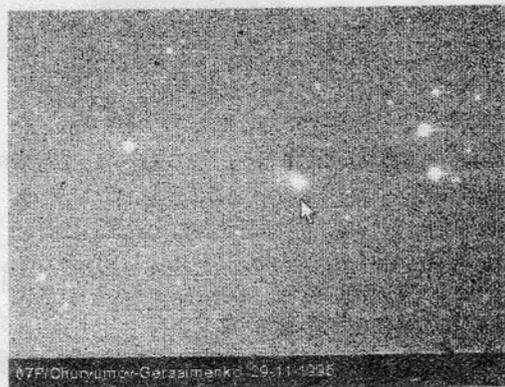
ミ☆ ド・ビコ彗星



17P/D. Bico 29-11-1995

明け方では見にくくなりましたが、今度は夕方、北西の空に見えるようになりました。でも、その姿はちょっと哀れですね。かろうじて北に尾が見えますが、拡散して一頃の勢いは感じられません。この星は、また夕方には見にくくなって、再び明け方の空で見えるようになりますが、暗くなってしまいます。

ミ☆ チュリュモフ一ゲラシメンコ彗星



17P/Churyumov-Gerasimenko 29-11-1995

1969年の発見以来律儀に明るくなって帰ってくる常連ともいえる周期彗星です。1982年に旧 KCAOの 31cm反射で複雑な尾が観測できた懐かしい星でもあります。今回帰は最良とはいえないのですが、上図に見るように、既に東に尾を引いた姿を見せています。よく見ると2本以上に分かれた拡がりのある尾であることがわかります。

短周期彗星は、想像以上にそれぞれ異なった固有の姿を見せてくれますが、その理由は何でしょうか？とても不思議です。起源の違いなのか、組成の違いなのか、それとも・・・

05/12/1995

